



阿寒観光振興課

天野 健太

略 歴

2017 年 4 月採用
2020 年 現所属に異動
2023 年 第 1 子誕生

出産休暇・育児参加休暇

育児休業取得

Q

休暇の使い方は？

妻の出産予定日前に取得し、出産に必要な物の用意や、子どもが生まれて迎え入れるための用意など、様々な準備のために使いました。育児参加休暇は出産後の各種必要な手続きや妻・子どもの退院後における家事・育児などのサポートのために使いました。

Q

取得する際に心配だったことは？

育児休業等を含めると二か月ほど職場から離れる予定であったため、四月という年度初めの多忙な時期であることも重なり、引継ぎ等含めて課内の方々にご迷惑おかけしないか不安がありました。ただ育児取得の相談をした上司の方からは、「育児は権利なのだから、積極的に取得しよう。」という言葉もあり、育児に対する理解があったためとても安心して育児を取得することができました。

Q

職場に復帰する前、不安に感じたことは？

久しぶりの職場復帰であったため、新しい業務や年度の途中から担当となる業務にスムーズに馴染めるか不安でした。また育児期間中は、子どものミルクの時間のために深夜や早朝に起き、お昼頃に子どもとお昼寝することもあったため生活リズムが不規則であり、職場復帰後、生活リズムがすぐに戻るかも不安でした。

Q

出産休暇と育児参加休暇を取得した感想は？

出産前から出産休暇を取得していたため、深夜に妻の陣痛が始まりかけた時にも、仕事のことを気にせず常に付き添うことができ、夫婦ともに初めての出産でしたが気持ちに余裕を持ってサポートすることができました。夫婦二人で出産前・出産後を過ごして初めて分かったのですが、ミルクを作ったり沐浴させたり買い物したりなど、妻一人で行うとなるととても大変だろうな、と思うことが多々ありました。二人で家事・育児を分担することができたのはとても大きく、妻にも大変喜んでもらえたこと、また第一子である長女の成長を間近で見ることができ、どちらもとても有意義な休暇でした。

Q

育児を取得してよかったと感じたことは？

育児は一か月程度取得しましたが、新生児の生活リズムは不規則なため、妻だけでの家事・育児となると妻の負担は大変大きく、退院直後に取得した育児参加休暇の五日間だけでは全く足りないと感じました。そのため育児参加休暇取得後も、育児を取得し妻のサポートや家事・育児を行うことが出来たのは非常に良かったと思います。また第一子である長女の成長を間近で見ることができ、育児中はとても貴重な時間となりました。

M

取得を検討している方へのメッセージ

それぞれの業務内容によって育児を取得できる期間は異なると思いますが、短期間であっても、育児取得をお勧めしたいです。私は男性であり夫としての視点となりますが、特に出産直前・直後の妻の身体的な負担は想像以上に大きいため、些細なことであってもサポートできれば、妻の負担度合いは大きく変わると思います。家事・育児は夫婦で協力し合った方が、その大変さや楽しさを夫婦で共有することができると、男性職員であっても、積極的に育児取得を検討してみてください。